

1人1台端末環境を基盤とした授業改善

笠岡市立笠岡小学校

2025.03.21

岡山県教育委員会
教育情報化推進室R6年度リーディングDXスクール指定校「笠岡小」に学ぶ

“リーディングDXスクール”は、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェア*とクラウド環境を十全に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開するための国の事業で、令和7年度も実施されます。今年度最後のレポートとなる今回は、令和6年度の指定校である笠岡小の全3回の公開授業から学んだことを整理し、お伝えします。

*ChromeOSの場合の例 Classroom、スプレッドシート、スライド、ドライブ、フォーム等

笠岡小は、研究主題「見方・考え方を働かせ、学び合い、高め合う児童・生徒の育成～子ども一人一人が主語になる1人1台端末の活用を通して～」のもと、「単元内自由進度学習」「複線型授業」を展開し、子どもたちが学習進度や学び方を「自己選択」「自己決定」「自己調整」できるよう授業改善を推進しました。その中で、学びを委ねる具体的な手段として、次の3つがポイントになっていたと考えます。

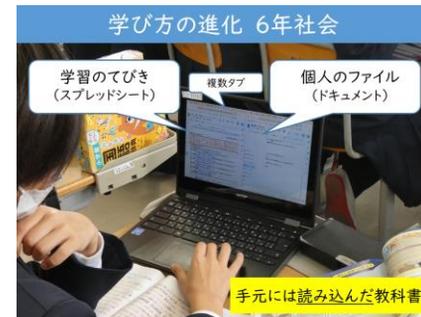
① 学習のてびき ② 教科書の活用 ③ 他者参照

① 学習のてびき

自立した学習者の育成を目指して、児童に学びを委ねていくための基盤の一つとなるのが「学習のてびき」です。教師は、**児童が単元全体の見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう**、単元計画や各時間の目標等をクラウドを活用して事前に共有します。そして、児童は自ら「学習のてびき」にアクセスし、学習状況を踏まえ、学習進度や学び方等を試行錯誤しながら進めます。このように「自己調整」を図る経験を積むことで、将来的に自分で計画を立てて学習を進められる力が育成されています。

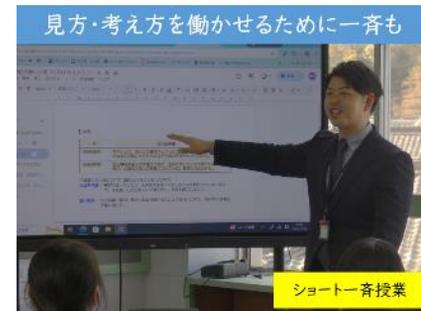
② 教科書の活用

個別に学習する場面では特に**教科書を読み取る力**が重要になり、児童は学習の目標達成のために、見方・考え方を働かせながら紙の教科書にアンダーラインを引いたり、気付き等を書き込んだりしながら、学びを深めています。右(上)の写真のように、クラウドで共有された学習のてびきに沿って、教科書を読み込んで情報を収集し、端末やノートにまとめるという学び方が確立されつつあります。



③ 他者参照

児童が他者参照ができるようクラウドを活用するとともに、右(下)写真のように**教師がその価値付けを充分に行うことも重要**です。児童が、なぜ他者参照が必要であるかを理解していないと一過性の学び方になりがちで、学び方の基盤になりません。教師は例を取り上げて称賛するだけでなく、自立した学習者を育成する視点に立って、**児童自身が他者の学びから価値を見出すことをできるように粘り強い指導**を行っています。



笠岡小では1人1台端末の活用を切り口に、児童の学びの本質を問い続け、先生方が繰り返し創意工夫を凝らしました。次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会諮問で明示された「**デジタルの力でリアルな学びを支える**」という考え方をいち早く実現された取組であったと考えています。